

競技注意事項

1. 競技規則について

本大会は、2023 年度日本陸上競技連盟規則、ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 札幌市厚別公園陸上競技場使用上の注意

- 1) 当該種目競技者以外は、競技エリアへの立ち入りを禁止する。
- 2) 競技開始後はフィールド内での練習を禁止する。
- 3) 投擲種目の練習は係の指示に従うこと。また、芝に空いた穴は修復すること。
- 4) 競技開始前の主競技場を使用しての練習は、競技開始時刻の 15 分前までとする。
- 5) 観戦禁止区域での場所取り、観戦、撮影等を行わないこと。
- 6) 補助競技場での投擲練習は危険防止のため禁止する。

3. 点呼について

- 1) 競技者は指定された時間までに競技者係にて 1 次点呼（○付け、またはシューズ検定）を行い、その後、各競技開始場所に直接集合すること。1 次点呼（○付け）終了時刻・現地集合時刻は以下の通りとする。

	1 次点呼終了時刻	現地集合時間
トラック競技	競技開始 40 分前	競技開始 20 分前
フィールド競技（棒高跳を除く）	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前
棒高跳	競技開始 70 分前	競技開始 60 分前

- 2) 競技者係は、競技場エントランスに設ける。
- 3) 3000m 以上の競技では、シューズの厚さ検定と通しナンバーの書かれたアスリートビブスの配布をもって 1 次点呼とする。なお、シューズ検定は時間がかかる場合があるため、早めに受けることを推奨する。その他の競技は、競技者係にて掲示されたスタートリストへの○付けをもって 1 次点呼とする。
- 4) 指定された時間までに 1 次点呼を行わない、または指定された時間に競技開始場所にいなかった競技者は当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。
- 5) 代理人による点呼は原則として認めないが、競技者が他の種目に出場中の場合のみ代理人による点呼を認める。その場合はその旨を競技者係にあらかじめ伝えておくこと。
- 6) リレー種目は、オーダー用紙（本部受付に用意）に必要事項を記入し、1 次点呼（○付け）終了時刻の 1 時間前までに競技者係に提出すること。

4. 棄権について

- 1) 事前に棄権することがわかっている場合は、代表者会議にて申し出ること。
- 2) 大会当日、やむなく棄権する場合は、1 次点呼終了時刻までに大会受付（メインスタンド下役員審判控室）にある棄権届（2 枚）に必要事項を記入し、競技者係と本部へ提出すること。

5. アスリートビブスについて

- 1) 学連に登録した競技者は、各自の学連ビブスを使用する。2023年度のものを使用すること。
学連ビブスは受付の際に配布するため、まだ受け取っていない場合は大学ごとに取りに来ること。
- 2) 腰ナンバー標識は、個人トラック種目出場者については右側につける。4×100mRについては、第4走者のみ右側につける。4×400mRについては第2・第3走者が両側に、第4走者が右側につける。
- 3) 3000m以上の競技に出場する選手は、1次点呼の際に競技者係にて配布するアスリートビブスを体の前後につける。ただし、女子10000mWに出場する競技者については、各自のレーンナンバーに10を足した数字を使用すること。
- 4) 本大会では腰ナンバー標識の貸し出しを行う。貸し出しを希望する競技者は競技者係まで申し出ること。貸し出しを受けた腰ナンバー標識は、必ず競技者係まで返却すること。また、各校が用意した腰ナンバー標識を使用してもよい。

6. シューズについて

- 1) 各競技者は日本陸上競技連盟競技規則 TR 5.2 に基づいたシューズを着用すること。
以下の表は日本陸上競技連盟競技規則より抜粋した靴底の最大の厚さである。これ以上の厚さのシューズで出走することはできず、仮に基準より厚い靴で競技を行った場合は競技規則に基づいて失格となるので注意すること。

種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考
フィールド種目 (除：三段跳)	20mm	全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く、長さを競う跳躍種目に適用。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (800m 未満の種目、ハードル種目を含む)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (800m 以上の種目、障害物競走を含む)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
競歩種目	40mm	

- 2) 靴底の厚さ計測を行うため、3000m以上の種目に参加する競技者は全員必ずレースで使用するシューズを1次点呼場所に持参しシューズの厚さ検定を受けること。1次点呼を兼ねているため、検定を受けなかった場合は棄権として処理されるので注意すること。

7. 競技の抽選・番組編成について

- 1) トラック競技予選のレーン順、フィールド競技の試技順はアスリートランキング記載の順による。
- 2) 準決勝以降の組み合わせ、およびレーン順は主催者が抽選する。
- 3) 事前棄権者が多数の場合など、予選ラウンドが行われなくなった競技については、選手の最高記録を考慮して決勝ラウンドの番組編成を行う。

8. 用器具について

- 1) 競技に使用する用器具は、すべて主催者側が用意したものを使わなければならない。
ただし、投擲物は1次点呼終了時刻1時間前までに用器具庫で各々検査を受けて許可されたものに限り、個人所有のものを使用することができる。この投擲物は、他の競技者も使用できる。
(日本陸上競技連盟規則 TR 32.2)
- 2) 滑り止め(炭酸マグネシウム)は、主催者側では用意しない。必要に応じて各個人が個別に持参すること。

9. トラック競技について

- 1) すべて写真判定とするが、万一、機器が故障し復旧しない場合は、手動計時に切り替えて継続する。
- 2) 100m、200m、100mH および 110mH は、気象状況によりバックストレートで実施する。この場合、1次点呼終了時刻の1時間前までにアナウンスと競技者係での掲示を行う。
- 3) 次の種目は、競技進行に遅れを生じさせる恐れがある場合のみ、次の条件で打ち切ることがある。制限時間は以下のとおりとする。

男子 3000mSC	15分00秒	女子 3000mSC	18分00秒
男子 5000m	18分00秒	女子 5000m	22分00秒
男子 10000m	40分00秒	女子 10000m	45分00秒
男子 10000mW	65分00秒	女子 10000mW	70分00秒

10. フィールド競技について

- 1) フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- 2) 跳躍競技でのバーの上げ方は下記のとおりとするが、状況により変更することもあり得る。

種目	練習	試技
男子 走高跳	1m70	1m75より5cm 1m95より3cm
女子 走高跳	1m40	1m45より5cm 1m70より3cm
男子 棒高跳	2m90	3m00より10cm
女子 棒高跳	2m00	2m10より10cm
男子 混成走高跳	1m45	1m50より5cm 1m80より3cm
男子 混成棒高跳	2m70	2m80より10cm
女子 混成走高跳	1m20	1m25より5cm 1m45より3cm

- 3) 走幅跳では、男子5m00、女子4m00に満たない記録は計測しない。三段跳の踏切板は、男子は砂場から11mと13m、女子は砂場から9mの位置に設置する。なお、この条件については状況により変更する場合もある。
- 4) 投擲種目において、競技開始時刻以前の主競技場での投擲練習は以下の時間のみ可能とする。

5月26日(金)	9:45 - 10:15 (30分間)
5月27日(土)	8:15 - 8:45 (30分間)
5月28日(日)	8:15 - 8:45 (30分間)

- 5) 円滑な競技進行のため、試技を行う際には制限時間を遵守すること。
- 6) フィールド競技の競技場所に近接したスタンドにコーチングエリアを設ける。当該種目に出場している競技者とのコミュニケーションはコーチングエリアから行うこと。

11. 助力について

- 1) 競技者への助力については、日本陸上競技連盟規則 TR6 に則り規制される。これに抵触する場合は、審判長から注意・警告を行う。
- 2) 是正されない場合は、種目から除外される場合もある。

12. 抗議について

- 1) 競技進行中に起きた競技者の行為、または競技成績に関する抗議は、その競技者あるいはチームの代表者により結果が正式発表（アナウンス）されてから 30 分以内（同一日に次のラウンドが行われる競技では、その結果が正式に発表されてから 15 分以内）に、総務員を通して口頭で審判長になされなければならない。時間以内に申し出がなければ、何ら問題はなかったものとみなされる。
(日本陸上競技連盟競技規則 TR 8)
- 2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。その裁定を不服とし、さらに抗議する場合は抗議申立書と預託金 10,000 円を添えて上訴する。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合は没収される。
- 3) この間の事務処理は総務員が行い、抗議者は大会本部で待機する。

13. 撮影許可証について

- 1) 撮影を希望する者は撮影許可証を携帯すること。スマートフォン・タブレットによる撮影の際も撮影許可証が必要であるため注意すること。
- 2) 大学関係者以外による撮影は禁止する。
- 3) 競技者（選手）がカメラで撮影されることによって嫌悪や不安に感じられると思われる場所からの撮影は禁止する。また、撮影をしている場所によっては不審と判断された場合、競技役員が注意・指導、撮影内容の確認をする場合がある。
- 4) 撮影許可証に関する詳細は別途「撮影に関するガイダンス」にて案内する。

14. 表彰について

- 1) 各種目第 3 位までの入賞者を表彰するので、該当者は競技終了後にアナウンスがかけられ次第、表彰席前に集合すること。また、8 位までの入賞者に賞状を授与するので、1・2 日目に競技をしたものは翌日の朝に受付にて代表者が受け取る。3 日目に競技をしたものは閉会式後に代表者が受け取る。代表者が受け取りに来られない場合は本部まで事前に連絡すること。
- 2) 対校得点については、
1 位：8 点、2 位：7 点、3 位：6 点、4 位：5 点、5 位：4 点、6 位：3 点、7 位：2 点、8 位：1 点とする。対校得点と同点の場合は優勝種目数の多い方を上位とする。

15. 応援について

新型コロナウイルス感染症に関する昨今の社会情勢を鑑み、声出し応援を可能とする。ただし、以下の事項を遵守すること。

- 1) 集団での応援については、周囲の方に配慮し、特別な事情がない限りマスクを着用して行うこと。
- 2) 個人での声援については、周囲に人がいない場合はマスクの着用については任意とするが、周囲の方に配慮し、場合によってはマスクの着用をすること。
- 3) 場合によっては巡回している競技役員がマスクの着用、集団応援の中断などをお願いする可能性がある。競技役員の声掛けには必ず応じること。

16. その他

- 1) 開・閉会式は特別な理由がない限り、必ず出席すること。参加人数の制限は設けない。
また、部旗がある大学は必ず持参すること。
- 2) 競技者の衣類の管理は、すべて各自で行うこと。役員・補助員による運搬は行わない。
- 3) 盗難・紛失について、主催者で受領した物品については一時保管するが、その他のものについては一切責任を負わない。なお、主催者で受領した物品等は大会本部で管理する。
- 4) 競技中に発生した傷害、疾病についての応急処置は主催者側で行うがそれ以降の責任を負わない。ただし、2023年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているため、この保険が適用される場合がある。
- 5) 駐車場の利用に関しては、駐車券と併せて別途案内する。
- 6) スタンドから競技が見えなくなるのを防ぐため、横断幕やのぼりはスタンドのバックストレート、第1～第4コーナー最下段の手すりには取り付けないこと。
- 7) 大会期間中に出たゴミは、必ず各自で持ち帰ること。
- 8) 不審者・不審物等を発見したら、大会本部まで連絡すること。
- 9) その他、不明な点は大会本部まで問い合わせること。